

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370101606		
法人名	医療法人 ももたろう整形外科医院		
事業所名	ももたろうの郷なかよし苑		
所在地	岡山市北区下足守2182番地		
自己評価作成日	平成31年2月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成31年3月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入苑者様が苑で快適に、また、四季を感じながら生活できるように、御家族様も一緒に楽しめる行事を定期的に開催している。ボランティアの方にアコーディオンの演奏をお願いし、娯楽も取り入れて楽しんでいただいている。また、日々の様子をまとめた報告書を月毎に作成し、家族の方に苑での様子を報告している。健康面は常に医師や看護師と連携し指示を仰ぐことによりサポートも充実している。また、職員間でも定期的に勉強会を行い、介護サービスの向上に努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「このホームの自慢は？、と聞かれたら即座に『皆さんの創作活動が素晴らしくて、ここはまるでギャラリーみたいでしょ』と答えられたのに」と残念そうに話してくれる管理者は、ホーム開設後、20年を超えるという歴史を少し話してくれた。ある出来事がきっかけになり、今の利用者さんは以前程乗り気ではないらしいが、リビングはやはり私から見るとユニークで楽しい工夫が満載のギャラリーだ。今の住人は男女がほぼ同数。介護度も比較的軽い方が多いが認知症特有の症状が見られる事も多い。現在、特に街中のホームは職員不足で厳しい状況が多く聞かれるが、このホームもぎりぎりの状態が続いている。その中で職員は、安全・安心の日々を何とか提供しようと、本当によく頑張っている。今日の午後は丁度恒例の、アコーディオンの会(ボランティアで定期的に馴染みの歌を演奏してくれる)がある等、地域の応援や、母体医院の支援・連携を受けながら、利用者の自立支援を目指しているホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とグループホームの理念を事務所内に提示する事で職員全員への周知を図り理念を念頭に日々の業務に取り組んでいる。	ももたろうの基本理念として「感じるのはぬくもり・支えるのはこころ」は運営方針の心のあり方を示しているし、行動指針の根底にある具体的な心のケアを表現していると思う。年間目標も「初心に戻り、利用者の立場に立って」を掲げている。	長期目標として定められた理念は今後も共有し実践していきたいが、今後短期目標を定めてみようとする時は、「具体的で実践可能な目標・一定期間を予め定めて評価しやすいものにする」等、留意しながらチャレンジして欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出掛け地域の方と出会うと挨拶を交わしている。地域の回覧板等で情報の共有を図っている。イベント時は地域のボランティアの方が来て下さっている。	隣近所の少ない地にこのホームがある所為もあり近所の方々と気軽に話し合う等のお付き合いは少ないが、地域の公民館を通して敬老会等では多数のボランティアの協力があったり、今日の午後のようなホームの関係者でない方々の応援もある。	今の季節はなかなか散歩もしにくいので春になると近くの桜を見に行ったり買い物に出かける等、外出を増やしたいとの目標も聞いている。この様なチャンスが増えると地元の人との交流も増えるだろう。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議など地域の方々が集まる機会の中で認知症についての理解や支援について説明したり、地域密着型サービスとしての理念や運営方針に関する理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所の報告を行うと共に皆様からの意見や提案を伺い改善に努めている。また、今後の取り組みについても内容を報告し意見を頂きサービスに繋げるようにしている。	定められた通り、定期的に、地域包括、町内会(会長・副会長・婦人会・民生委員等)が参加して有意義な会議を実施している。参加者からは色々なホームの運営に関するような意見や質問がある事が記録されている。	運営推進会議に、利用者・家族の参加がないのが残念に思われるので、今後の課題として出来る事からチャレンジしてみたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初めには入苑者の報告を行っていると共に、問題が起きた場合は、市区町村担当者と連絡を取り相談や指示を仰ぎ、必要な情報を得ている。また、生活保護者の入居もあり、社会福祉等の協力体制も整えている。	大きな問題に関しては市と法人の代表者が、日常的な情報交換や指導は2ヶ月毎の運営推進会議で連携を取っている。利用者の中には身寄りの無い方・成年後見や生活保護等支援が必要なケースもあり、その都度連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針を定め定期的に委員会を開催し、利用者様に対して尊厳のあるケアを行い身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	今は身体拘束をしなければならぬ状態の利用者はいないが、身体だけでなく心理的な拘束や言葉による制約も含めて職員間で勉強をしている。外に出たそうにする人とは、声かけをして、一緒に散歩に出かけたりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待に関する知識や理解を深めている。日々のケアで気づいた点や自分たちの行為について問題がないかをカンファレンス時に職員間で話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があるとみられる利用者様の御家族に対し、情報の提供や申請の為の支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分に時間を取り説明し同意を得ている。また、質問や疑問などあれば、その都度、説明を行っていきたいと考えている。改定があれば、文章で説明を行い納得の上、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会やご家族の面会時に意見を言ってもらえるような雰囲気作りに努め、意見や要望等を反映できるように取り組んでいる。	ホームからの情報提供として「なかよしだより」や担当者からの家族への手紙があり、日々の様子はよく伝えられていると思うが、それらに関する家族からの思いや意見の拾い方が十分ではないかもしれない。	運営推進会議の中で参加者から「家族会は実施しているのか？」という質問があり、実施の状況を説明したとの記録が見られた。今後も運営推進会議への参加が定着しない状況の時は家族会での意見や要望は大切にしていきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスの場や、日々の業務の中でも各職員の意見や提案を聞き、反映させるように努めている。問題があれば、その都度話し合いを行っている。	ホームの運営に最も関与の大きい人材不足については職員の訴えに対して法人は理解を示していると聞いている。現在はゆとりがなく、ぎりぎりの状態で回しているようだ。日常的な問題については、職員間でよく話し合い、気持ちを合わせて邁進している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の意見、要望を聞き、管理者から施設全体責任者へ伝えている。職員のストレスや疲労軽減のため、休憩を取り気分転換を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じて研修に取り組める計画をしている。職場内においては各職員が勉強会の資料を作成し勉強会を行い、介護技術向上のために取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ入会している。事業所以外の方との交流の機会があれば参加しサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規利用者様には御本人はもちろん御家族からも話を聞き、生活状態の把握、御本人の心身状態や要望を伺い、安心した生活を送って頂けるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作りを心掛け、御家族の不安を取り除くために、これまでの経緯や苦勞などを伺い、御家族の要望等に耳を傾けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何が必要なか対応を検討し、御本人や御家族の思いや要望を伺い、現在の状況把握を行い信頼関係を築いていけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人のペースに合わせ、無理のない程度の仕事(洗濯たみ、テーブル拭き等)をお願いしたり、共に生活しているような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時には、ご家族とゆっくり過ごして頂き、日々の様子をお話し共に御本人を支えていく関係を築いている。また、楽しい時間を共有してもらうよう季節のイベントへの参加もお願いしている。毎月の報告書に活動状況や生活の様子など報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方が来苑された時には楽しく過ごして頂けるよう場所や雰囲気作りに配慮し、関係が継続していくよう支援している。	夫婦で入所している人にとっては、お互いの存在が心強く、家族にも安心感を与えている。その他の人も家族・友人・兄弟等の面会があり、生活保護・成年後見を利用している人もいるが、家族と疎遠な人はなく親族間の絆は継続されていると聞いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が安心して関われる環境を職員が作り、問題が発生した時は必要に応じて職員が仲介し、お互いが納得できるよう話を傾聴、共感し安心して生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた場合でも、ご家族の了解の下、身体状況や精神状況または趣味や生活についても情報提供し新しい環境に早く慣れるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の希望や意見をお聞きし、出来るだけ自己決定が出来るよう声掛けし、御本人から確認できない場合は御家族と話し合い御本人の希望を最優先できるよう努めている。	日々の関わりの中で、コミュニケーションを取るように心がけており、例えば「イチゴが食べたい」と聞けば、その希望を叶えるように努め、食べて喜んでもらっている。食べ物の希望が多いが、一人ひとりの意向を引き出す努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族からの情報による生活歴や御本人との関係が深かった方の情報から、これまで過ごされてきた人生を理解するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る範囲内の事は行って頂き、無理のない程度のADL向上、残存能力の発見に努め、状態観察を行い、笑顔で過ごして頂けるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で入苑者様の思いや要望を伺いながら状態に合わせ、御家族の要望も取り入れ職員皆でカンファレンスを行い介護計画を作成している。また、個別に担当を決めモニタリングを行いケアに活かしている。	本人・家族の意向を基に職員間で話し合っケアプランを作成しており、毎日の実施状況を「ケアプラン実施表」に記入して、定期的にモニタリングをし、次回のプランにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア内容、計画に基づいた取り組みや結果を記録し、職員間で情報を共有しケアの実践に活かしている。また、申し送り事項に記入し職員間で周知徹底を図り、次回の計画見直しの検討課題に反映できるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決められた業務の流れに限らず、その時の状況に合わせた対応を行い、御本人や御家族の多様なニーズに応じることが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会に属し、回覧板等で情報を共有している。また、行事の時にはボランティアの方をお招きして交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設や協力病院、かかりつけ医との連携を図り安心して適切な医療が受けられるように支援していく体制を整えている。入院時も御家族や病院関係者と連絡を取り、状態の把握に努めている。	医療機関が母体なので、ホームの協力医の週1回の往診がある。職員に非常勤の看護師が配置されているので、日頃の健康管理は万全であり、受診の時は個々の状態をよく把握している看護師が同伴する事が多い。医療と介護の連携がよく出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入苑者様の状態の変化を把握し、必要があれば医師や看護師に相談している。看護師は週1回以上は勤務し受診や看護等の必要な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入苑者様が入院した際は定期的に訪問し情報の収集に努め退院時には医師や看護師、ケースワーカーとしっかり情報交換を行い安心して生活して頂けるよう取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり終末期においては御家族に対し医師や職員と話し合いを行い事業所としての対応や方針について納得いく説明をし共有を図り連携して支援していくようにしている。	この2年間で利用者の入れ替わりはあったが、ここ2～3年はホームで最期を迎えた人はいない。精神症状があり専門医を受診している人はいるが、身体的には重度化した人は少なく、ターミナルに近い人もいない。今後も本人・家族からの希望があれば出来る限り支援していこうと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内に緊急時対応マニュアルをいつでも閲覧出来るように掲示している。必要時に医師や看護師と連絡を取り連携を図るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、年2回の消防訓練や避難訓練を行い円滑な誘導が出来るように訓練を行い、運営推進会議で地域の方に内容の報告を行い協力を得られるようお願いしている。	運営推進会議で災害対策を話し合い、小・中学校より総社方面(鬼の城の高台等)に避難した方が良いのでは？という意見を頂いたり、過去の例として、ホーム近くの足守川が氾濫した時の水の流れを教えてもらった。緊急時の対応として町内との協力体制を話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入苑者様一人ひとりの人格、プライバシーを尊重し、その人にあった声掛けや対応を職員間で確認しながら最適な対応が図れるよう支援している。	リビングの2ヶ所のトイレが隣同士にあるので、間違えて開けないように「使用中」「空いています」の札を掛けてニアミスを回避するような工夫をしたり、プライバシー保護の為、トイレ前に掛けてある排泄チェック表を人目に触れないように裏返す等の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が今何をしたいのかを聞き、可能な限り本人の思いや希望を聞き出し、自己決定出来るよう支援している。また、意思疎通の困難な方においては表情や態度を読み取りながら意思表示できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入苑者様のペースに合わせ、家事作業（テーブル拭き、洗濯たたみ）、レク活動、散歩、ドライブ等に参加して頂き、御本人の気持ちのがのらない場合は無理強いすることなく御本人の気持ちを優先させ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに気をつけ、毎日が清潔、快適に過ごされるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入苑者様の状態に応じた食事形態に配慮し、雰囲気や環境を整え、楽しく食事が出来るよう支援している。また、食事前後の台拭き等を負担にならない程度で職員と共にやっている。	テーブルでもやしの根切りをしている人達は主婦経験者ばかりなので、手や口を動かしながら色々な料理の方法を教えてもらった。普通食・刻み・ミキサー食と形態も様々だが、全員自力摂取出来、完食。本人の希望でミキサー食にしている人もいるそうだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量をチェックし食事が摂れているか把握し水分量が少ない方もチェックし健康管理を行っている。入苑者様の状態に合わせた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、口腔内の清潔が保てるよう支援している。一人ひとりの能力に応じた支援を心掛けている。また、歯科医と連携し随時、相談や往診を行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入苑者様一人ひとりの排泄状態に添って、声掛け、誘導、見守り、介助を行い、失敗が出来るだけ軽減できるように支援している。。	排泄が自立で布パンツの人が1名。布パンツで頑張っていた人も状態の変化により、現在殆どの方はリハビリパンツやパットの組み合わせだが、夜間にポータブルトイレを居室に置いている人もいる。排泄リズムを見ながら声かけ・誘導をして自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックを行い個々の状態に合わせて医師に相談し必要ならば投薬を行い便秘の解消に努めている。毎日の運動や水分補給を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日にはバイタルチェックを行い特変のない方は決められた時間(午前・午後)と分けてゆったりと入浴できる環境を整えている。また、こちらの都合で急がせる事の無いよう個々のペースに合わせて入浴を楽しんでいただけるよう支援している	週3回の入浴を基本としているが、職員体制の関係で週2回が現状である。その日の気分で嫌がる人や順番の不満はあるものの、拒否をする人はいない。シャワー浴対応は3名。その他の人は一対一の介助で湯船に入ってゆっくり入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、体調に合わせて、その方に合った休息を取り入れ、周りの環境に配慮し、安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用リストをファイルに綴じ、個人個人の薬の内容、用法を理解し、医師の指示の下支援している。また、飲み忘れのないよう徹底し体調の変化を見逃さないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入苑者様一人ひとりが活躍出来ることを提供し、楽しく生活できるよう支援している。また、塗り絵や歌、買い物、ドライブなど楽しみのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って買い物等が出来るよう普段の会話の中から聞き取り、実現出来るよう支援している。	ドライブがてら車で近くのスーパーに出かけたり、花見の時は3~4人程度の少人数で出かけた聞いた。職員体制の関係で全員揃っての外出は、今は難しいが、職員の余裕がある時は出来る限り外出支援をしようと思っている。	今はマンパワー不足で、ぎりぎりの状態と聞いているので、外出支援も厳しい状況ではあるが、特に男性利用者は外出好きの人が多いため、積極的に家族に働きかけ、協力してもらって個別外出支援を少しでも増やしていって欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族よりお預かりし、苑で管理している金銭に関しては金銭出納帳を付け、毎月御家族に郵送している。また、御本人の希望や外出支援にて買い物に出掛け金銭を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や友人など苑にかかってきた電話は可能な限り御本人が直接会話が出来るようにしている。また、要望があれば電話をかける支援も行いコミュニケーションをとれるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節感を感じられるものを掲示し、今までの生活の場の延長となるような雰囲気作りに努めている。職員がいつも見守る中で安心して過ごせる空間作りをしている。	諸事情により以前のような利用者の作品ばかりではないが、リビングの壁は色々なテーマの色彩豊かな壁紙で埋め尽くされていて、さながらギャラリーのようだ。男性陣4名のテーブルと女性陣5名の2つテーブルに別れ、それぞれの居場所で思い思いに過ごしているが、程良い距離感を保ち、男性同士のトラブルも殆ど無いと聞いた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入苑者様同士で共有出来る場所で団欒されたり、一人で過ごされる事を好む方は居室に戻られゆっくり自分のペースで安心して過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物や家族の写真などを家族の協力の下に設置し入苑者様が不安なく安心して過ごせる空間が作れるよう配慮している。	夫が先、妻が後から入所した夫婦が一組、隣同士の居室でお互いを気遣いながら暮らしており、両親と一緒に入所出来るホームを探していた息子がやっと見つけた安住の地になっている。日中は自宅でテレビを見て過ごす事が多いAさんは今日もスポーツ観戦中。環境にも配慮し過ごしやすい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力が活かせるようホールや居室など生活に係わる場所に分かりやすく貼紙をして場所の把握が出来るよう工夫している。一人ひとりに合った出来ることを考え、声掛け、見守りしながら無理せず行って頂けるよう支援している。		